

日本スポーツ社会学会会報

Vol. 42

Sport Sociology

【目次】

・日本スポーツ社会学会第15回大会のご案内	… 1
・〈学会・研究会情報〉	… 6
・平成17年度第2回理事会議題及び報告事項	… 7
・編集委員会報告	… 10
・研究委員会報告	… 12
・追悼	… 13
・編集後記／事務局住所	… 16

日本スポーツ社会学会
Japan Society of Sport Sociology
広報委員会 2005 年12月

日本スポーツ社会学会第15回大会のご案内

I. 大会概要

◆期 日 2006年3月27日(月)・28日(火)

◆会 場 奈良教育大学 教育学部 (奈良市高畑町)

◆アクセス方法

別紙をご参照下さい。

※大会事務局では、交通・宿泊に関する斡旋は行いません。
恐れ入りますが、各自でご準備下さい。

◆参加費 正 会 員 5,000円〔締切日(12/22)を過ぎると6,000円〕
学 生 会 員 3,000円
懇 親 会 4,000円

◆大会事務局 奈良教育大学 教育学部 スポーツ社会学研究室内

Tel/Fax: 0742-27-9235

E-mail : takahasi@nara-edu.ac.jp

◆学会大会ホームページ <http://jsss.org/>

※ プログラムやシンポジウム・課題研究等の内容については、
確定したものから順にホームページに掲載します

スケジュール ※変更になることがあります。(最新版は大会ホームページを見て下さい。)

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
27日			理事会	受付	一般発表		特別講演	実行委員会 企画シンポ		総会	懇親会
28日			一般発表	昼食	一般発表	国際シンポ		課題研究			

◆特別講演 演者：町村 敬志 氏 (一橋大学)

◆実行委員会企画シンポジウム

テーマ：多文化世界と身体・スポーツ (仮題)

パネラー：野村 雅一 氏 (国立民族学博物館先端人類科学研究部) 他

(他のパネラーは、後日大会ホームページにてお知らせします。)

◆国際シンポジウム

テーマ： 「 アジアスポーツシステムのなかの日本・韓国

～ワールドカップ・サッカー日・韓共催後のスポーツ現象を解く～」

趣旨：

日本スポーツ社会学会は、2005年韓国スポーツ社会学会と交流協定を結び、互いの学会大会における国際シンポジウムに、相手国の学会員を招くことになった。両学会の研究や、学会員の交流を深めることに寄与するのが目的である。

2002年ワールドカップサッカーの日韓共催の後、日本・韓国の社会は変容を遂げていくなか、スポーツは自国の社会、文化の変容にどのように影響を及ぼしているのか。また、スポーツは互いの国の社会、文化についてどのような関係性をもち、影響を及ぼしているのか。

ワールドカップサッカーの日韓共催はサッカーだけでなく、互いの国の他のスポーツへ関心を高めることになった。さらに、日本、韓国で相手国のドラマ、映画、音楽などの文化消費も増加してきた。日本では、韓国ドラマへの関心から「韓流」という社会現象が生じた。その引きつけ役は日韓ワールドカップサッカーの共催であり、そのため共催は「静かな革命」であった。

そこで、「アジアスポーツシステムのなかの日本・韓国 ～ワールドカップ・サッカー日・韓共催後のスポーツ現象を解く～」というテーマを設ける。自国および相手国のスポーツ現象へのまなざし、ボーダレス化するスポーツマーケット、企業戦略、グローバルに移動するプロのスポーツマン、サポーター、ファンの身体感覚について検討を加えることは重要である。サッカー、野球などのアジア大会への関心がますます深まっていくなか、スポーツシステムはメディア、スポーツ産業、消費者の場をいかに再構築し、また、それらによっていかに再編させられるのか。スポーツへの個人的、集合的なエートス、パトス、メモリーはいかに創られるのか。両国の社会空間を越え、アジアという視点から日本・韓国のスポーツ現象をとらえ直すことで、視点の交差による豊かな考察が生まれる。

国際シンポジウムでは、スポーツの研究者、実践者の垣根を越え、日本、韓国のスポーツ関係者、学会員による発表が期待される。コメンテーター、及び会場で参加する会員がともに討論を深めていく参加型である。本テーマによる新たな試みは、日本・韓国のスポーツ社会学会が協定を結び、研究及び人的交流を深めることにも意味を創出するであろう。

文責：国際交流委員長 黄順姫（筑波大学）

◆課題研究

- 1)スポーツ/娯楽の近代化 ―国民国家と地域社会の『相克』―（仮題）
- 2)スポーツの空間/空間のスポーツ ―開発・「抵抗」・都市―（仮題）

Ⅱ. 大会参加・一般研究発表申し込み

大会に参加される方、研究発表される方は、期日までに以下の手続きにしたがって申し込みをして下さい。

〔申し込み手続き〕

- ① 郵送済みの案内に同封の「第 15 回大会参加・発表申込書」に必要事項を記入の上、学会事務局宛に郵送、ファックスでお送り下さい。第 15 回大会ホームページから申し込むこともできます。
- ② 申込みと同時に、郵便振替にて大会参加費を大会事務局の口座までご送金下さい。
 - ・大会参加・懇親会 9,000 円 (学生会員 7,000 円)
 - ・大会参加のみ 5,000 円 (学生会員 3,000 円)

※ 一般会員の締切日以降の申し込みは 1,000 円割り増しになります。

申し込み締め切り 2005年12月22日(木)

大会参加申し込みは、これ以降大会当日まで受け付けますが、大会準備のため、締切日までに申し込みいただくよう、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

Ⅲ. 発表抄録集原稿の提出

研究発表される方は、抄録集に掲載するための原稿を以下の要領で作成し、期日までに大会事務局まで送付してください。

◆書式

- ・ A4用紙2枚、縦置き、横書き、1枚当たり40字×50行の2000字(論題、発表者氏名、所属を含む)で、上下左右の余白を20mm取ってください。
- ・ 論題、発表者氏名、所属を原稿の冒頭に入れてください。それぞれの下に英語表記を入れてください。

◆発送方法

- ・ ワードソフト等を使用して原稿を作成し、プリントアウトしたものを、厚紙等で保護した上、郵送してください。第15回大会ホームページからも送ることができます。
- ・ 大会ホームページおよび電子メールで送付する場合は、Microsoft Wordで作成した文書を添付して送信してください。

※ 送付された原稿をそのまま抄録集として印刷しますので、完成原稿をお送り下さい。

原稿提出締め切り 2006年1月31日(火)

※ 期日までに提出されない場合、抄録集に掲載されません。

IV. 発表に関する注意事項

- ① 個人研究の発表は、原則として日本スポーツ社会学会の会員に限ります。
- ② 研究発表は発表 20 分、質疑応答 10 分です。ただし発表者数によって変更があります。
- ③ 発表の際に使用する機器（プロジェクター、VTR）については、申し込みの際に明記してください。
- ④ 当日、発表資料を配布する場合は、各自 70 部以上を持参してください。

日本スポーツ社会学会第 15 回大会参加・発表申込書送付先

【参加申込先】 〒630-8528 奈良市高畑町 奈良教育大学 教育学部
スポーツ社会学研究室 学会大会事務局 宛
Tel/Fax 0742-27-9235 E-mail:takahasi@nara-edu.ac.jp

※ 15 回大会ホームページからも申し込みができます。

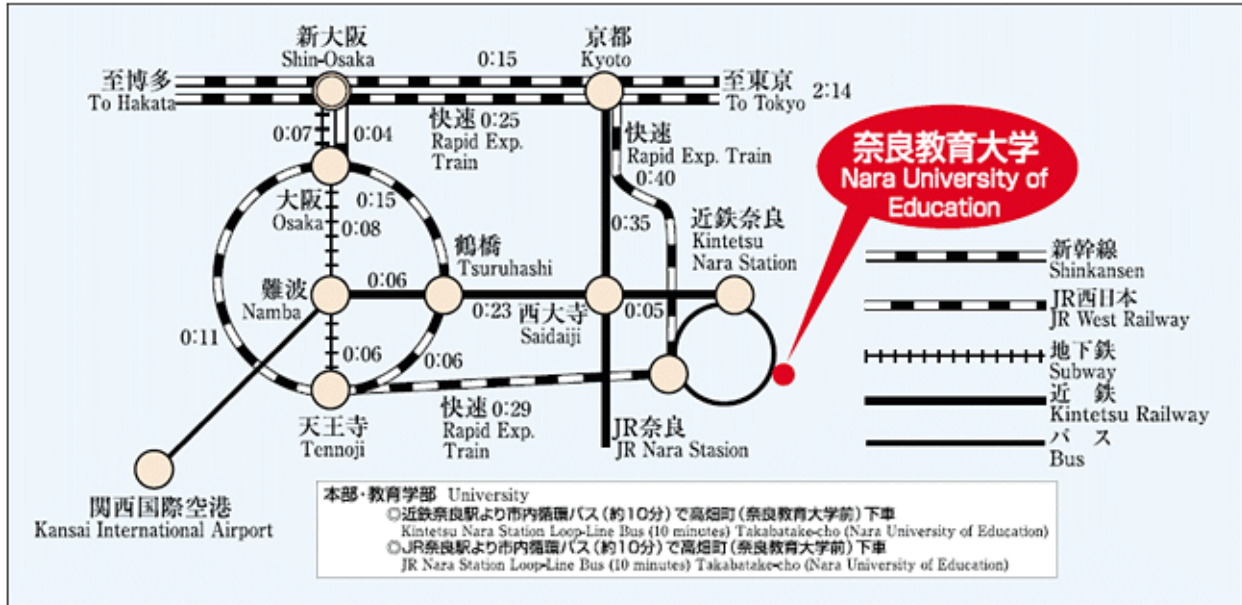
<http://jsss.org/>

【参加費振込先】 郵便振替 口座番号 00930-7-117620
口座名称 日本スポーツ社会学会第 15 回大会

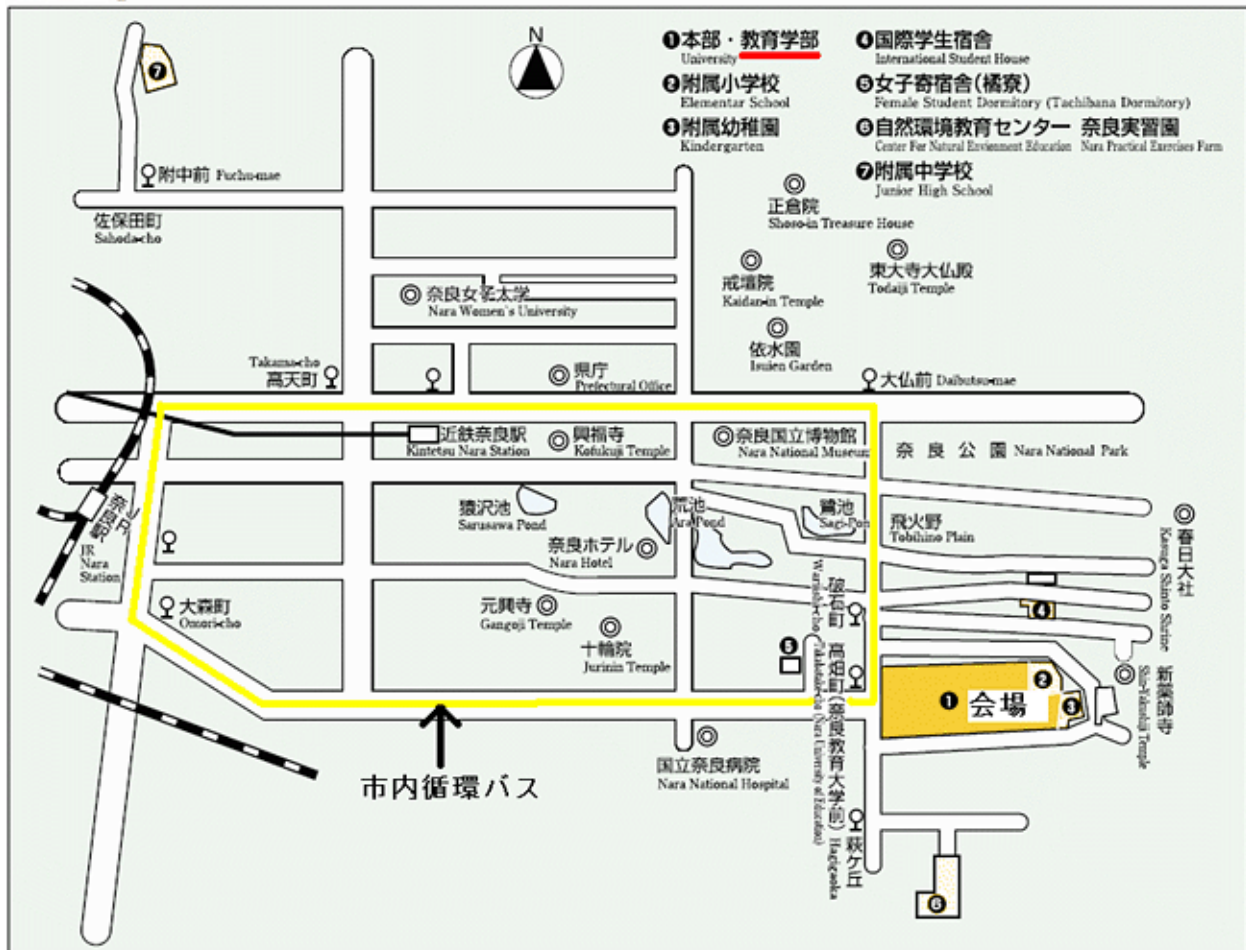
※ 郵送した案内に同封の振替用紙をご利用下さい。恐れ入りますが、手数料は各自ご負担願います。なお、支払者の連絡先を必ずご記入下さい。案内が届いていない方は事務局までご連絡下さい。

◆ 会場(奈良教育大学・教育学部)へのアクセス

交通案内 Access



位置図 Location



<学会・研究会情報>

会員より以下の開催情報が寄せられました。

●2006世界女性スポーツ会議くまもと

日時： 2006年5月11日(木)～14日(日)

場所： 熊本市内

メインテーマ：「変化への参加」

E-mail: sekaijosei@city.kumamoto.lg.jp

<http://www.city.kumamoto.kumamoto.jp/wcw/>

●Sport and Spirituality Conference 2007

日時： 2007年8月29日～31日

場所： York St John College, England

アブストラクト(ファーストコール) : 2006年3月

E-mail: sportspilutality@york.ac.uk

平成 17 年度第 2 回理事会議題及び報告事項

日 時：2005 年 11 月 20 日（日）13：00～15：30

場 所：筑波大学大塚キャンパス E364

出席者：伊藤、佐伯、井上、中島、野川、黄、松尾、松村、水上、萩原、
菊(事務局幹事)、高橋(15回学会大会実行委員会代表)、以上12名

審議事項

① 第 15 回学会大会(奈良)について

- ・すでに会員へは 15 回大会案内(配布資料:日本スポーツ社会学会第 15 回大会のご案内)を郵送済みであると、高橋実行委員会責任者より報告があり、企画案を追認した。
- ・日程については、発表数に応じて発表会場を増やす等の工夫をし、国際シンポの時間をもう少し長く取ることとする。
- ・国際シンポ経費は国際交流委員会予算、課題研究経費は研究委員会予算からの負担とする。

② 日韓学会交流協定に基づく事業の実施について

黄国際交流委員長より日韓学会交流協定に基づく事業として、学会大会時に国際シンポを催し、テーマを「アジアスポーツシステムの中の日本・韓国」とし、発表者は韓国1、日本2、コメンテーター3とし、韓国の発表者については韓国学会の推薦とする企画案が示され、承認された。

③ 各委員会活動状況について(運営規程作成、見直しを含)

i) 国際交流委員会(黄)

活動: 国際シンポのテーマを検討・決定し、国際交流の準備をすすめている。

規程: 配布資料「日本スポーツ社会学会国際交流委員会の規程案」が示され、意見を徴収した。内容については、それらを参考にして3月までに整備する。

- ・日韓スポーツ社会学会の学術交流協定には、会員を派遣する学会が航空運賃を負担するとなっているが、会計・事務処理の煩雑さを考えると、招待側がすべて負担するほうが良いと考え、この件を韓国の担当者と検討する。

ii) 研究委員会(松村)

活動: 課題研究テーマの検討、決定。テーマは以下の2つである。

スポーツ娯楽の近代化 ―国民国家と地域社会の『相克』―

スポーツの空間／空間のスポーツ ―開発・「抵抗」・都市―

2年間の継続テーマとし、2年目は両テーマの接点を考えたい、若い人に自由にディスカッションしてもらおうという方針が示された。

規程:3月までに作成する。

iii) 編集委員会(野川: 委員長代理)

活動: 配布資料「編集委員会報告」。12本の投稿論文があったが、7本の修正原稿を査読者に再度送付した。4本の書評と「書評に答えて」を予定、依頼中である。

規程: 配布資料「執筆要項修正案」どおり、承認された。

- ・表紙デザインの変更を承認した。但しロゴは生かすこと。
- ・裏表紙の内側に広告掲載を可とすることが承認された。
- ・著作権等に関して、投稿規程に条文を加えることとする。

iv) 広報委員会

活動: 配布資料「第42号会報の進捗状況について」11月中にホームページにアップする予定である。

規程:3月までに作成する。

④ ISSA学会招致について

本学会としては、要請されている2007年開催については、準備時間等との関係から無理と考え、引き受けられないとする。ただし、学会と別個に有志が実行委員会等を構成し、実施することはさまたげない。

⑤ 規程の整備

i) 学会開催に関する規定案(配布資料「別紙1」)

提案の12条削除、3条学会大会構成内容はそれぞれについての定義要、

6条は候補地の後に「および担当者」を挿入する。

ii) 役員選出細則の改定(配布資料「別紙2」)

提案どおり承認した。つまり、現行6条の次に「(当選)同点の場合は、選挙管理委員会の抽選により決定する」を挿入し、これを第7条とし、以下の条文を繰り下げる。

⑥ JISS(国立スポーツ科学センター)とのネットワーク体制構築について

カナダのSport Discussにつなぐスポーツ科学センターのデジタル情報センターに学会として登録参加し、スポーツ社会学研究に掲載した論文を提供するか否かについて、JISSから回答を求められていた。論文の抄録については可とするという結論を得た。

⑦ 会員移動 以下の入会5名、退会1名を承認した。

新入会員リスト

属性	氏名	所属
学生会員	岡安 功	順天堂大学
学生会員	笹生 心太	一橋大学大学院社会学研究科
学生会員	森 政晴	駒沢大学大学院人文科学研究科社会学専攻
学生会員	王 篠卉	関西大学社会学研究科
正会員	堀池 真一	東京都教育庁生涯学習スポーツ部 スポーツ振興課

退会希望者

正会員	小林 佳矢	なし（青森市）
-----	-------	---------

2. 報告事項

- ①日本学術会議の組織変更に伴い、本学会は日本学術会議協力学術研究団体として登録することとした。
- ②平成 18 年度学会大会：候補地は金沢市、担当者は佐川哲也会員（金沢大学）
- ③予算執行状況：研究委員会 編集委員会、15 回大会実行委員会への支払いを済ませた。
- ④会員数：正会員325／学生会員92／賛助会員3／購読会員11

編集委員会報告

編集委員長 リー・トンプソン

●編集委員会の体制

トンプソン（編集委員長）、野川、松尾、平野、小椋、中江
以上6名

●編集状況

- ・5月14日（土）第1回編集委員会

編集方針、審査手順・スケジュール、書評の取り扱い等

- ・9月8日（木）第2回編集委員会

*投稿論文数…12本

*1本の論文につき、主査（編集委員）1名、その他の査読者2名を
決定

- ・10月15日（土）第3回編集委員会

*査読結果の検討と第1回目の総合判定。

- ・11月14日（月）執筆者による第1回目修正原稿の投稿締め切り。

現在は第2回目の査読を依頼中

●書評論文

計4本の書評論文をすでに依頼し、書評された著者に当該論文の応答を任意に依頼する。

●広告について

前号掲載の5社（杏林書院、不昧堂、世界思想社、大修館書店、創文企画）に依頼予定。

編集委員会から「会員の業績報告」原稿のお願い

スポーツ社会学研究第14巻の巻末に、以下の要領で「会員の業績報告」を掲載します。ついで、ワード書式添付ファイルで、下記メールアドレス宛てに、

2006年1月10日（火）まで（必着）

にご投稿ください。

editor@jsss.jp

1. 業績内容は、原則として「スポーツ社会学」分野に関連するものを中心に挙げて下さい（関連する、しないの判断は投稿者に委ねます）。
2. 今年度1年間の業績を報告してください。
3. 報告の内容を以下の項目に分けてください。
 - 1) 書籍（分担執筆、編集を含む）
 - 2) 原著論文
 - 3) 翻訳
 - 4) 調査報告書・学会報告
 - 5) その他
4. 書き方は、第13巻の「会員の業績報告」欄を参照してください。アルファベット、数字等は半角文字でお願いします。

研究委員会報告

研究委員長 松村和則

以下の2つのテーマを、研究委員会のプロジェクト研究として設定致しました。大学院生を含めて、若い人たちに自由にディスカッションしてもらいを望んでいます。

なお、2年間の継続テーマとし、2年目には両テーマの接点を考える予定です。

- スポーツ娯楽の近代化 -国民国家と地域社会の『相克』-
- スポーツの空間／空間のスポーツ -開発・「抵抗」・都市-

追悼 荒井貞光さん

森川貞夫

去る 11 月 22 日、日本体育学会大会のために筑波大学に向かう車中で服部宏治会員から荒井さんの訃報の第一報を受け取りました。実はその 9 日前の 13 日（日）に広島・宇品の病院に見舞ったばかりでしたので、その早い逝去にただただ驚くばかりでした。

全国に配信された「訃報」記事は「荒井貞光氏（あらい・さだみつ＝広島市立大教授、スポーツ社会学）22日午前9時55分、肺がんのため広島市南区の病院で死去、60歳。神奈川県出身。自宅は広島市安佐南区大塚西3の3の45の406。お別れ会は27日午後1時から広島市南区大州5の3の22、平安祭典広島東会館で。喪主は長男丈介（じょうすけ）氏。」という、実にあっけない記事でした。

荒井さんは、私が大阪の高校教員生活から逃れるようにして大学院に戻ってきた 1968 年の同期生の一人（他に三好洋二、金崎良三会員）で、それ以来 37 年のつき合いになります。彼は修士課程を 2 年で終えてすぐに九州大学に赴任、その後、私の郷里の広島に移り、広島大学総合科学部、広島市立大学と変わりはしましたが、一貫して活動の場は広島を中心に地域にしっかりと根ざしていたのが印象に残ります。しかも彼自身はいつも生まれ育った神奈川あるいは関東に戻りたかった気持ちをどこかで抑えての「反中央」意識という、私から見れば屈折した感じのものでした。だから酔うといつも私に「東京だけが中心じゃないぞ」と言ってからんでくるのが常でした。それが少しふっきれて、昨年の初夏でしたか、「終の棲家」として今のマンションに移ったばかりで癌が再発したことは、返す返すも無念というしかありません。

ちょうど昨年の夏は、彼が中国留学生の博士論文の指導でもっとも苦しんでいた時期ではなかったかと今は想像しています。正直なところ、彼から学外審査員を頼まれて半年間

程つきあいました私も、かなり当時は苦しかったのです。元々は根が優しい荒井さんは、ドクター取得後に母国で助教授ポストが内定している留学生に、なんとかドクターを取らせたいと切望していました。ところが私があまりにきびしく審査をするものだから、業を煮やして暑い夏の盛りに、わざわざ私の集中講義先の山口大学まで彼女を連れて来て直接修正意見を求めるというものでした。これには私が根負けしました。それまでの東京と広島を挟んでの数回のやりとりと、最後は広島で2日間にわたる最終審査、公開審査を経て合格ということになった時は、まるで自分がドクターを取ったような喜びようでした。それは夏も終わり秋に入る頃でした。この時は二人して安堵感に浸り、しばし病気のことも忘れて酒を酌み交わしたことでした。広島市大から車でちょっと出たところの郷土料理屋であったと思いますが、それが彼とのお酒をまじえた最後の機会になるとは夢にも思いませんでした。しかもすっかりご馳走になってしまいました。

長い付き合いの中で彼とのお酒のつき合いは数え切れないのですが、私はどちらかというところとじっくりと腰を落ち着けて飲みたいタイプなのに彼は30分もするとすぐに店を替えるタイプでした。いつも馴染みの店を何軒か回るといふ飲み方が彼らしいところかと思いますが、今考えたらこれは彼らしいお店の人への心配りというのではないかという気がしてきます。どのお店にもいい顔をしていたかったのかもしれませんが。そういう時に教え子呼び出し同席させることが多かったのも、彼なりのお弟子さんへの「シャイ」な気配りだったのでしょう。

はしご酒9軒という最高記録を作った彼は、今時珍しい最後の「無頼派」だったのかもしれない。それが余計に病に繋がったのではないかと悔やまれるのですが、本人はきっと精一杯生きたのでしょう。そう思わないとたまらない気持ちです。

スポーツ社会学への彼の「思い」と貢献は、なんと言っても「スポーツ空間論」、例の「コートの内、外」理論です。これは彼独自のもので、彼はそれをいつも誇りにしていたものです。それに「クラブ文化が人を育てる」(結局は遺書の書名になった)は彼の口癖でした。

まだまだ仕事をして欲しかったと口惜しい限りです。それに 9 月に再入院しながら、彼が理事長をしていた「みんなのスポーツ全国研究大会」のことを気にして、たびたび病室から携帯で電話をかけてきては、ろれつの回らない状態にもかかわらず「すみません。よろしく頼みます」と言い、強い責任感を持ち続けていました。電話の向こうから聞こえてくる弱々しい彼の声が今も耳奥に残って離れません。おそらく一生私にとっては忘れることのできないことだと思います。

荒井貞光さんは日本スポーツ社会学会の創立以来の会員であり、同時に理事、研究委員長などを歴任、そして広島での第 8 回大会（1999 年 3 月）のすべてをお世話してくれました。節目節目に彼がいかに学会のために貢献してくれていたかを今は重く、静かに思い知らされ、そして惜別の情が込み上げてきます。—合掌—

編集後記

第42号の会報をお届けさせていただきます。本号が、今期の理事会開催日程との関係で、例年に比べ1ヶ月ほど遅い発行となりましたことを、まずはお詫び申し上げます。今号より会報の編集体制が新しくなり、広報委員会ご担当の森川理事、亀山理事と、事務局ご担当の萩原理事のもとで、松田恵示会員と岡田桂会員が幹事として実質的な作業を受け持つことになりました。学会員の皆様のお力をお借りしながら、電子化された会報ならではのよさを、今後いろいろな形で探っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。また本号には、理事や学会大会の実行委員長として、長年にわたり体育社会学、スポーツ社会学の発展にお力をお尽くしになられてきた故荒井貞光先生への追悼文が掲載されております。バイタリティーに溢れた荒井先生の突然の訃報に、今は申し上げる言葉も見あたりません。心より御冥福をお祈り申し上げます。(K.M)

◆学会への連絡、入退会、住所・所属・メール等の変更、会費納入、その他の各種手続き

〒151-8523 東京都渋谷区代々木3-22-1 文化女子大学気付
日本スポーツ社会学会事務局
萩原美代子【事務局長】

TEL: 03-3375-7577

FAX: 03-3375-7577

E-mail: secretary@jsss.jp

◆ 会報への投稿

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学教育学部
松田恵示【会報担当】

E-mail: doc@jsss.jp

◆ 学会公式ホームページ

日本スポーツ社会学会公式ホームページ

<http://jsss.jp/>